

Ref Doc 1400T-6

米日外交關係第二卷一九三一年一九四一年  
拔萃

六六頁

在日大使館參事官（トーマン）覺書

牛場氏ヨリノ昨日ノ電話ニヨル依頼ニ答ヘ、本朝私ノ  
宅テ朝食ヲ共ニシヨリト話シテ置イル。

X  
X  
X  
X  
X  
X  
X  
X  
X

牛場氏ハ話ヲ進メテ米國政府ガソノ持札ヲ見セラルコト  
ヲシテカツタタメ日本當局ノウチノ悲觀論ガ益々強メ  
ラレルニ至ツタト話ツタ。

米國政府ガソノ原則ノ全貌ヲ既カニシタノハ事實デア  
ルガ何ヲ日本政府ガナスベキカラ具體的ニ正確ニ示シ  
テ居ラヌ。信談ガ初マツテカラ數ヶ月經過シタニ河ヲ  
ズ米國政府ガ具體案ヲ決シテ日本人ニ知ラセヌ様非常  
ニ注意ヲ拂ツテキル様ニヲモハレタ事ハ日本人ヲヒド  
ク失望セシメタ。十月二日ノ米國最後ノ覺書ヲ受ケ取  
ツタ以後ニオイテハ日本政府當局ノ多クノモノハ日本  
ハワナヲカケラレタノダトノ意見ヲ持ツニ至ツテキル  
彼等ノ論ズル所ハ大體次ノ如クデアル。

Ref Doc 1400T-6

2

「米國ハ全然日本ト合意ニ達スル意思ヲ持ツテキナカ  
ツタノダ。亞米利加ハ日本ノ政策及ビ目的ノ全部ノ展  
示ヲ求メタガソレガ米國ノ政策及ビ目的ト一致シナカツ  
タノデ、ソコデ日本トノ合意ヲ拒ミ半敵對的態度ヲ取  
リ續ケル立派ナ理由ヲツケテキルノダト。」

×  
×  
×  
×  
×  
×  
×  
×

イー・エツチ・ディー